

2024年2月25日 受難節第2主日礼拝次第

主日礼拝

前奏 (黙想)

招きの言葉 列王記下6章 16～17 節(旧約 586 ㊦)

讃美歌 17(聖なる主の)

主の祈り <A>(讃美歌93-5)

詩編交読 詩18編 26～35 節(交読詩編 23 ㊦)

聖書 ヨハネによる福音書9章 13～41 節(新約 184 ㊦)

祈禱

讃美歌 446(主が手を取って)

説教 「あの人をどう思うのか」田中雅弘牧師

讃美歌 305(イエスの担った十字架は)

信仰告白 使徒信条<A>(讃美歌93-4)

献金

讃美歌 88(心に愛を)

派遣祝福

後奏 (黙想)

報告

※讃美歌は原則として全節を歌います

主の祈り A(讃美歌21 93-5-A)

天にまします我らの父よ、ねがわくはみ名をあげさせたまえ。

み国を来らせたまえ。みこころの天になるごとく 地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは 限りなくなんじのものなればなり。 アーメン。

聖書 ヨハネによる福音書9章 13～41 節

ファリサイ派の人々、事情を調べる

13 人々は、前に盲人であった人をファリサイ派の人々のところへ連れて行った。14 イエスが土をこねてその目を開けられたのは、安息日のことであった。15 そこで、ファリサイ派の人々も、どうして見えるようになったのかと尋ねた。彼は言った。「あの方が、わたしの目にこねた土を塗りました。そして、わたしが洗うと、見えるようになったのです。」16 ファリサイ派の人々の中には、「その人は、安息日を守らないから、神のもとから来た者ではない」と言う者もいれば、「どうして罪のある人間が、こんなしるしを行うことができるだろうか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で意見が分かれた。17 そこで、人々は盲人であった人に再び言った。「目を開けてくれたということだが、いったい、お前はあの人をどう思うのか。」彼は「あの方は預言者です」と言った。

18 それでも、ユダヤ人たちはこの人について、盲人であったのに目が見えるようになったということを信じなかった。ついに、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、19 尋ねた。「この者はあなたたちの息子で、生まれつき目が見えなかったと言うのか。それが、どうして今は目が見えるのか。」20 両親は答えて言った。「これがわたしどもの息子で、生まれつき目が見えなかったことは知っています。21 しかし、どうして今、目が見えるようになったかは、分かりません。だれが目を開けてくれたのかも、わたしどもは分かりません。本人にお聞きください。もう大人ですから、自分のことは自分で話すでしょう。」22 両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。23 両親が、「もう大人ですから、本人にお聞きください」と言ったのは、そのためである。

24 さて、ユダヤ人たちは、盲人であった人をもう一度呼び出して言った。「神の前で正直に答えなさい。わたしたちは、あの者が罪ある人間だと知っているのだ。」25 彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、わたしには分

かりません。ただ一つ知っているのは、目の見えなかったわたしが、今は見えるということです。」26 すると、彼らは言った。「あの者はお前にどんなことをしたのか。お前の目をどうやって開けたのか。」27 彼は答えた。「もうお話ししたのに、聞いてくださいませんでした。なぜまた、聞こうとなさるのですか。あなたがたもあの方の弟子になりたいのですか。」28 そこで、彼らはののしって言った。「お前はあの者の弟子だが、我々はモーセの弟子だ。29 我々は、神がモーセに語られたことは知っているが、あの者がどこから来たのかは知らない。」30 彼は答えて言った。「あの方がどこから来られたか、あなたがたがご存じないとは、実に不思議です。あの方は、わたしの目を開けてくださったのに。31 神は罪人の言うことはお聞きにならないと、わたしたちは承知しています。しかし、神をあがめ、その御心を行う人の言うことは、お聞きになります。32 生まれつき目が見えなかった者の目を開けた人がいるということなど、これまで一度も聞いたことはありません。33 あの方が神のもとから来られたのでなければ、何もおできにならなかったはずです。」34 彼らは、「お前は全く罪の中に生まれたのに、我々に教えようというのか」と言い返し、彼を外に追い出した。

ファリサイ派の人々の罪

35 イエスは彼が外に追い出されたことをお聞きになった。そして彼に出会うと、「あなたは人の子を信じるか」と言われた。36 彼は答えて言った。「主よ、その方はどんな人ですか。その方を信じたいのですが。」37 イエスは言われた。「あなたは、もうその人を見ている。あなたと話しているのが、その人だ。」38 彼が、「主よ、信じます」と言って、ひざまずくと、39 イエスは言われた。「わたしがこの世に来たのは、裁くためである。こうして、見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる。」

40 イエスと一緒に居合わせたファリサイ派の人々は、これらのことを聞いて、「我々も見えないということか」と言った。41 イエスは言われた。「見えなかったのであれば、罪はなかったであろう。しかし、今、『見える』とあなたたちは言っている。だから、あなたたちの罪は残る。」

讚美歌305番

- 1 イエスの担った十字架はいのちの木となり
良い実を結ぶ。
キリエ・エレイソン、
死のとりこから
よみがえらせてください。
- 2 われらの行くて みちびいて、
われらの心に
平和をください。
- 3 世の民われを 責めるとき
「すべて過ぎ去る」と
天は言われる。
- 4 さばきの日にも み恵みで
救いをくださる
神をたたえよう。
- 5 世は破滅へと追い立てる。
「なぜ迷うのか？」と
天は問われる。
- 6 肩にくいこむ十字架は
いのちの木となり
豊かに実る。

讚美歌88番

心に愛を 豊かにみだし
日ごとのわざに つかわしたまえ

讚美歌17番

- 1 聖なる主の美しさと
その栄えを 仰いで、
まごころもて み前に立ち
み名をたたえ、あがめよう。
- 2 重荷すべて 主が代わって
負ってくださる うれしさ。
悩み多い 世の旅路も
みちびく 主のみ恵み。
- 3 心つくし 主に仕えよう。
とるに足らぬ 私の
愛のわざも、身も心も
主は受け入れ、よろこぶ。
- 4 闇をかえて 光とする
主の恵みの 貴さ。
望みは湧き、おそれは消え、
胸に満ちる よろこび。

讚美歌446番

- 1 主が手をとって起こせば
よろめく足さえ
おどりあゆむよろこび
これぞ神のみわざ
- 2 主が手をのべてさわれば
とじた目はひらき
ひかりを見るうれしさ
これぞ神のみわざ
- 3 ただ主を見つめあゆめば
波にもしずまず
おそれ知らぬ信仰は
これぞ神のみわざ